

## 三戸高クリエイティ部 町内8カ所に設置

# 困り事の目安箱を開封



クラフト目安箱に寄せられた意見を発表して  
ジャンル分けする生徒

## 「防犯灯暗い」「移動販売を」意見30件

### 三戸

青森県立三戸高（直町年行校長）のクリエイティ部が、町民から困り事を投書してもらうために町内8カ所に設置したクラフト目安箱「入れてける」の開封式が16日、同校で行われた。目安箱には、路線バスや買い物先などの不便さを訴える声や、農産加工品のブランド化や新規イベントの提案など約30件が寄せられた。（熊谷勝之）

クラフト目安箱は1月末から4月中旬の間、町内の飲食店や公共施設、産直施設に設置された。乾燥リンゴがブランド扱いされているから、三戸でもやってみたいは「移動販売車が来てくれれば利用者がたくさんあるかも」などの提案も多数あった。

同校クリエイティ部の部員数は、昨年度13人だったが、本年度は新1年生を含めて23人に増員。同日の開封式には、部員のほか沼沢修二町長、慶長隆光町教育長も参加。部員が開封して意見を読み上げ、ジャンル分けした。

意見では「子どもが遊べる場所が少ない」「宿泊施設がほしい」「防犯灯が暗い」などの不満があった。一方で、「粗大ごみに出す

同校の2、3年生は本年度、寄せられた意見を基に探究授業の中で課題の解決策を考え、町などと連携して実行す